保健医療学部理学療法学科　カリキュラムマップ

カリキュラムポリシー	ディプロマポリシー
本学科では、身体機能の専門職としての知識と技術を十分に発揮し、保健・医療・福祉の分野に貢献できる理学療法士を養成することを目的としている。理学療法を行うには、身体機能の障害だけでなく、それに伴う心理的問題をはじめとする多様で複雑な要因を考慮する必要がある。そのため、豊かな人間性を培い、科学的思考を基に、率先して問題解決ができる人材を育成するためのカリキュラムを編成している。 理学療法士養成規則に定められた教育科目を基本として履修するだけでなく実践的で自ら考える内容のセミナー形式の科目を用意し、初年次より学外見学・実習を行い、学内での学習と専門職養成に不可欠な実践教育をバランスよく配置している。卒業までに必修科目と選択科目を合わせた132単位以上を修得することで、理学療法士国家試験受験資格が得られる。 カリキュラムの詳細は指定規則と日本理学療法士協会で提示されている構成をもとにして基礎教育科目、専門教育科目で構成される。基礎教育科目は7つの科目群に分けられ、専門教育科目はさらに3つの専門基礎分野と6つの専門分野に分けられ、これら16の領域は個別に学生の到達度をもとに自己評価・点検を受けることとなっている。 各々の詳細は以下のとおりである。 基礎教育科目は、「基礎ゼミナール」「人間生活の質的向上に関する科目群」「社会参加の前提に関する科目群」「専門教育の基礎となる科目群」「コンピュータリテラシーに関する科目群」「外国語科目群」「健康の維持向上・管理に関する科目群」の7つの科目群、 専門基礎分野は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の3つの領域で構成され、 専門分野は「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」「理学療法研究論・演習」の6つの領域で構成される。 (基礎教育科目と専門教育科目の科目編成の詳細は別添資料を参照のこと) 学年ごとにカリキュラムの構成を通覧すると、 1年次では、幅広い教養を身につけながら、自然科学ならびに解剖学や生理学といった医学の基礎となる科目を学ぶ。同時に、施設見学や早期臨床実習で学生自らが医療従事者の一員であることを自覚するための実践教育を展開する。 2年次では、解剖・生理学を応用した運動学を確実に身に着け、理学療法利用者の病態を理解するために必要な臨床医学を学習する。その上で、理学療法評価学の検査項目や測定手技を、講義および実習を通して習得する。 3年次の前期は、理学療法治療学や地域理学療法学の立場から臨床的問題点の解決過程を学び、チームワーク医療の重要性や予防医学への応用、さらに健康増進の社会的必要性について学習する。3年後半では、学生一人一人が理学療法の臨床応用を擬似体験できるよう、教員の指導のもとで理学療法技術論をとおして理学療法の適応方法と技術を深める。同時に、1～3年次の講義や臨床実習で学んだ理学療法学の学問体系、セミナーを基に、理学療法学の専門分野を発展させるための研究方法を理学療法研究論・演習の過程で習得する。 4年次では、豊橋市内をはじめとする各地の臨床実習関連施設において、理学療法対象者を臨床指導者のもとで実際に担当し、個々の状態に合わせた理学療法の実践、即ち評価、診断、治療および効果判定を総合的に学習する。	1. 豊かな人間性と高い倫理観を備え、幅広い教養を有している。 2. 情報活用能力とコミュニケーション能力と専門領域を超えた多様な課題を解決しうる判断力を有している。 3. 理学療法士として必要な専門的知識、技術を修得するとともに、医療・福祉・保健の各分野で活躍するための基本的能力を有している。

	科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数 必修	単位数 選択	開講時期（●） 1年 春	1年 秋	2年 春	2年 秋	3年 春	3年 秋	4年 春	4年 秋	専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目） 豊かな人間性と高い倫理観を備え、幅広い教養を有している。 豊かな人間性	高い倫理観	幅広い教養	情報活用能力とコミュニケーション能力と専門領域を超えた多様な課題を解決しうる判断力を有している。 情報活用能力	コミュニケーション能力	専門領域を超えた多様な課題を解決しうる判断力	理学療法士として必要な専門的知識、技術を修得するとともに、医療・福祉・保健の各分野で活躍するための基本的能力を有している。 生命倫理・健康科学・リハビリテーションの理念を理解する	人体の構造と機能及び心身の発達について理解する	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進について理解する	理学療法の概要と基礎的事項について理解する	理学療法評価を理解し、そのために必要な知識と技術を修得する	予防と治療のための理学療法の知識と技術を修得する	臨床場面で理学療法を実践し理学療法士としての基本的能力を習得する	理学療法学研究の方法論を理解し、問題解決手法を修得する
基礎教養ゼミナール	9001	基礎ゼミナールⅠ	大学生としての心構えや医療・理学療法に関連するテーマについてグループ討議（少人数学習）、あるいは全体学習を行い、医療従事者（理学療法士）を目指す大学生としての心構えや理学療法に必要な資質について学習する。学外実習の一環として、近隣の学外施設（病院）にて施設、およびリハビリテーション現場（理学療法、作業療法など）を見学する。また、ヒトの身体に関する知識（骨名、筋名、解剖・運動用語）や運動学・統計学に関連する計算などの演習（小テスト）を実施する。	①大学生としての心構えや資質を身に付ける。 ②大学生としての基本的な学習法を身に付ける。 ③病院施設、およびリハビリテーション部門の概要について説明できる。	1		●								◎	◎	◎	◎	◎	◎								
	9002	基礎ゼミナールⅡ	ひとりの専任教員に対し10名程度の少人数の学生グループ単位で授業を展開する。テーマの選択、文献検索、調査、まとめ、報告そして発表と一連の主体的で双方向の学習に取り組む。従来の授業と異なり、議論や発表を通して自ら判断し意見を発信に力点を置いた授業展開となる。各回のテーマや授業形式も教員と学生との話し合いで展開していく。	①各回授業で1回以上自分の意見を表明する。 ②課題に対する重要な文献を探すことができる。 ③関連する学術論文の内容を理解し議論ができる。 ④課題について各グループで取り組むことができる。 ⑤課題について取り組んだ成果をパワーポイントを用いて発表することができる	1			●							◎	◎	◎	◎	◎	◎								
	9003	基礎ゼミナールⅢ	文献講読を通して、資料を要約し、効果的に説明・発表するスキルを獲得することを目指す。1年次の基礎ゼミナールⅠ、Ⅱでの学習で身につけた能力をさらに伸ばし、学問研究の基礎的能力である「判断力」「理解力」「表現力」を養うことを目標とする。受講者が分担して文献を説明し、それについて討論する形式で授業を進める。少人数単位のゼミナール形式で授業を行う。	①文献資料を要約できる。 ②資料を説明・発表できる。	1				●						◎	◎	◎	◎	◎	◎								
	9004	基礎ゼミナールⅣ	介護福祉施設における介護体験を経験し実践することを通じ、理学療法士を志す大学生としての意識と資質を高め、基礎医学・理学療法専門分野の修学への動機付けを高めることを目的とする。臨床実習Ⅰにおける実習成果を確認しつつ、介護福祉施設にて、利用されている方々とコミュニケーションを図り、介護スタッフのお手伝いを経験することでより実際的な接遇方法を学ぶ。実践した内容・課題については資料を作成し、発表を行う。	①実習生として適切な身なり、態度をとることができる。 ②介護福祉施設利用者や介護スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。 ③課題について文献資料を用いてまとめることができる。 ②課題について取り組んだ成果を発表できる。 ③各回1回以上自分の意見を表明することができる。	1					●					◎	◎	◎	◎	◎	◎								
	9011	心理学Ⅰ	心理学Ⅰでは、科学的にこころを探求する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。「知覚」「記憶」「脳と心」「パーソナリティ」「社会的認知」「学習」「動機づけ」「言語」「思考と創造性」「社会的行動」「人生初期の発達」「青年期の課題」「不適応と心理療法」といったテーマをとり	①人間のこころを探求する方法の歴史と現況について、概略を説明できる。 ②人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考と創造性など）の基礎的な構成要素を説明できる。 ③人間のこころの働きに関する個人差や発達的な差異（パーソナリティ、人生初期の発達、青年期の課題など）について、代表的な理論を説明できる。		2	●								○		◎		◎		○	◎					○	

人間生活の質的向上に関する科目群

		課題」「不適応と心理療法」といったテーマをとりあげ、解説する。	④一人でいるときと他者とともにいるときとでこころの働きが異なることについて、例示することができる。 ⑤こころの働きの不調およびその治療法について、例示できる。																								
9012	心理学Ⅱ	心理学Ⅱにおいては、具体的かつ現代的な問題をとりあげながら、科学的な視点からこころを探求する心理学の成果を紹介する。「ヒトらしい機械は実現できるか」「対人行動の発達と展開」「やりとりするこころの中」「これからのヒトに向けて」といったテーマをとりあげ、解説する。	①対人行動の生得的基盤と発達の過程を説明できる。 ②他者とともにいる、あるいは集団の中にいるときとで、こころの働きが異なることについて、心理学における代表的な知見を列挙できる。 ③対人認知、社会心理学の知見にもとづいて、日常的な問題あるいは今日的な問題について、見直すことができる。		2		●							○		◎		◎		○	◎					○	
9013	倫理学	倫理学と言うと何やら当たり前の常識や抹香臭いお説教を想像してしまう人がいるかもしれませんが、倫理学は道徳や善い行為の根拠を論理的に問う学問です。この講義では、現代の倫理的問題を取り上げ、考察することで、倫理学のイメージを掴んでもらうことを目標とします。併せて論理的に思考する能力を養成することも目的とします。	①倫理的な問題が身近にあるということに気づき、そうした問題に関心を持てるようになること。 ②社会でどんな倫理的な問題が起きているのかを理解すること。 ③倫理的な問題がどのようにして生じているのかを理解すること。 ④自分の生き方と社会とを関係づけられるようになること。		2	●								○	◎	◎			○							○	
9014	国語表現法	レポート、論文などの文章を記述するために必要とされる表記法・表現法などについて講義する。併せて、社会人の能力として求められるビジネス文書の記述法についても講義する。	①日本語の基礎を身につける。 ②文書作成に必要な知識を身につける。 ③目的に応じたビジネス文書を記述できるようになる。	2		●										◎		◎								○	
9015	文学論	芥川龍之介の『トロッコ』他の短編小説を取り上げる。短編の中に込められている意図を考察し、併せて芥川龍之介の表現を獲得する。なにより小説の面白さを味わうことができればと思う。	①小説に込められた作者の意図を読み取る。 ②小説は読者によって、読まれ方が変化することを認識する。 ③自身の考えを文章によって他者に説明できる。		2		●							○		◎											
9016	哲学	人生論や屁理屈、非現実的な空想と見なされがちな「哲学」という学問の「本当の」イメージをつかんでもらうのがこの講義の目的である。 講義では配布したテクストについて解説し、それについて最後に感想を書いてもらう。そうすることで、われわれの身の回りにある様々な事物について、既存の学問や常識にとらわれずに様々な方向から考える能力を身につけていく。	①簡単なテクストを理解し、その上で簡単な感想を書けるようにすること。 ②社会、文化等の身の回りにある事柄について関心を持てるようになること。 ③様々な学問へ関心を持てるようにすること。 ④常識や自分が持っている考えや見方に素朴に疑問を持てるようにすること。 ⑤他者を説得するために自分が考えたことの理由を考えるようにすること。		2		●							◎	○	○											
9017	現代芸術論（芸術の見方）	本年度は開講しない			2		●							◎		◎											
9018	人間関係論	本年度は開講しない			2	●								○	○	○		◎								○	
9019	教育社会学	本年度は開講しない			2		●							○	○	◎		○								△	
9020	ボランティア論	阪神大震災後，ボランティア活動への関心は高まってきている。特に2011年3月の東日本大震災により日本中でボランティア活動への関心は高まり、多くの若い人たちがボランティアに参加している。ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つになっている。この授業では、福祉・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等・さまざまなボランティア活動と関連したＮＰＯ（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標とする授業なので，講義だけではなく，ボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞いたりし，諸施設を訪問し，実際にボランティア活動を行う機会も設ける。これらを通じて，総合的に受講者のボランティア論の基礎を作り出すことを目的とする。	わが国のボランティア活動の現状を理解し、さらに自らがボランティア活動に参加することにより、やる気の態度・積極的な志向性、人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現能力を高めることを目的とする。		2	●								○	○	◎		◎								○	
9021	地域援助活動論	従来、理学療法は医療施設でおこなわれることが一般的であったが、現在は社会保障の変化とともに地域で活動する機会が増加している。高齢者や障害者及び障害児が、その地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、理学療法をもって支援するための基本的な理論と技術について学ぶ	地域活動を理学療法の対象として認識し、社会との関連で健康問題を理解する		2	●								○	○	○		◎	◎							◎	
9022	救命救急学	理学療法の対象疾患患者は、急性期、回復期、維持期を通じて、病態が急変する事態が十分起こり得る。 本講義は、理学療法施行中に遭遇し得る患者の様々な救急事象を解説し、救急と判断する評価方法や対処法について習得する。	①外傷や病態が急変し救急と判断する必要がある患者の病態と症状を理解する ②外傷や病態が急変し救急と救急と判断するための評価方法を理解する ③外傷や病態が急変し救急と判断する必要がある患者への対処法について理解する ④救命法として一次救命法について理解し実践できる		2		●								○	○			○		◎	◎			○	○	

		9023	福祉と住環境	が安心して快適に暮らすために必要な環境整備とは何か。その意義と必要性について学んで行きます。 ①年齢・能力・体格・障がいの有無などによる区別がなく、誰もが使いやすい環境をデザインするという考え方を「ユニバーサル・デザイン」と呼び、私達の生活に係わる様々な分野で取り組まれ　ています。この講義では住宅に焦点をあて、「ユニバーサル・デザイン」の考え方から、住環境　について学びます。あわせて、福祉住環境コーディネーター検定３級の受検対策にもなります。 ②住生活（住居の役割）の大切さから街づくりについても学んで行きます。 ③個人住宅において、老いてもすこしでも長く自立して安心・安全に暮らし続ける事の出来る住宅　とはについて　学んで行きます。 ④授業で他の人との考えと自分の考え方を討論しいろいろな考えがあることや、人により使い勝　手や身体能力の違いにより、住環境の整備が異なることを学んで行きます。	①社会に出て専門分野で基礎知識を身につける。 ②２・３級住環境コーディネータの資格取得を目指す。		2	●								○	○	◎			○							△	
		9026	社会学概論（現代社会の構造）	［学校から仕事の世界への移行］ 　働くことに焦点を合わせ，経営組織の構成員として，職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら，加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。学校から仕事の世界へ移行する直前の段階にある大学在学中に，経営組織の構成員として働くことにかかわる予期的社会化を授業のなかで経験したい。具体的には，職業興味，職業選択，キャリア展望，組織社会化，職務満足，仕事の動機づけ，組織コミットメントなど，組織内キャリア発達に関する主な主題を取り上げ，共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ，職業生活にかかわる身近な問題について考えるための手がかりを示すことが目標である。	①仕事や働くことを自身の問題として現実的に考えるようになる。 ②仕事や働くことに関する現代社会の諸問題を考えるようになる。 ③就職することは，社会の構成員としての義務であることを理解できるようになる。 ④働きながらどのような仕事経験をするかについて理解できるようになる。 ⑤働くことによって，人がどのように成長できるかについて考えるようになる。 6．仕事や働くことが，男女間でどのように違うかについて理解できるようになる。		2	●								○		○			○								
		9027	法学概論（憲法と民法を中心に）	この講義は法学の入門講座です。法学の一般的な知識を学習できるように講義を進めます。法学の一般的知識つまり、法理論、法解釈、裁判所制度、実体法（民法、刑法、商法、訴訟法等）について概説します。参加者の積極的な参加を望みます。	大学の一般教養としての法律学について基礎的な知識獲得を目指します。		2	●								○	○	○			○								
		9028	市民社会と政治（議会制民主主義）	現在、我々が生活している社会すなわち現代社会は大衆社会であり、脱工業化社会＝情報化社会であり、それはまた市民革命によって出現した市民社会の延長線上にある。複雑多岐にわたって変化し活動する社会の実態を＜政治＞という視点で理解し、国際的な視野に立って日本の社会と政治について考えてみたい。そして、一市民あるいは一人間として地域社会の政治、日本の政治さらに国際政治とどう関わって行くべきか、考える。少子高齢化社会、グローバル化といわれる今の日本社会について真剣に考えてみる。	①よき市民、有権者としての自覚を持つこと		2	●								○		○			○								
		9029	社会思想史（社会システムの模索）	近代から現代における社会の変化に対し、人間がいかにそれを認識し、それに対しどのように対応して行ったかについて、日本や北東アジアを中心に考え、現代の社会や文化を考察し理解を深めることを目的とする。＜近代化＞＝Modernization、国民国家nation-stateの形成という視点から欧米社会と日本を含めた東アジア社会の比較対照する視点を構築したい。	国際的な視野で日本および日本社会をとらえる視点を持つ		2	●	●							○		○			○								
	社会参加の前提に関する科目群	9030	消費経済論（消費と経済）	経済の実態構造のなかで、生産と消費は二つの基本的なモメントとして相互に制約し合う関係にある。しかしながら、生産を主体としたこれまでの経済学は大量生産のもとで公害や環境汚染、環境破壊につながる利益優先をもたらし、食の安全などを含めて多くの批判を受けることとなった。１９６０年代以降、消費者主権、消費者保護という立場から消費者を主体とした経済学の構築という理念が生まれ、消費者運動の発展のなかでP ・L法をはじめ消費者の権利も拡大しつつある。本講義では、メディアおよび情報・通信の発達がこうした消費者行動にどのような影響を与えるかを中心に説明したい。パソコンを端末とするネットワークの進化が消費者行動に大きな変化をもたらし、それが流通変革へ、さらに生産システムの革新へと連鎖している。消費者の需要が量的にも質的にもかなり高い確率で生産へと伝達され、製品の安全や環境保護、リサイクルに生かされつつある。こうした経済学の変革についても講義の中で触れたい。			2	●								○		○			○								

基礎分野 30		9032	社会政策（高齢化社会と福祉政策）	今日、「消えた年金」をはじめとして日本の社会政策は戦後と呼ばれる期間のなかで最も大きな転換期を迎えている。社会政策は、本来経営者とは立場の違う労働者の労働や雇用、生活を守り発展させるため、社会権にもとづいて立法、実行された国の政策である。その中心は労働三権と社会保障であり、本講義では、前半の講義で労働組合の制度的問題、産業構造の変化と雇用の問題を、後半では社会保障のなかの社会保険制度、健康保険制度や年金保険制度を取り上げ、その詳細を説明する。とくに、ニートやフリターなどの若者の雇用問題、派遣労働などの問題を丹念に解説し、講義の中で討議してゆきたい。また、少子・高齢社会の到来とともに公的な社会保険制度も財政悪化など大きな曲がり角に突き当たっている。その原因を具体的に解説するとともに社会保障における格差の問題、さらにその将来的ビジョンを展開してゆきたい。		2	●								○		○			◎										
		9034	社会福祉学	人々の健康と生活を守る「医療」と「福祉」を自分自身の生活に引き寄せて考えていきます。この授業では、社会福祉の意義や目的、社会福祉の各種法制度とその歩みについて学びます。専門職として必要な社会福祉の知識を習得します。	①社会福祉の意義と目的、社会福祉制度とその歩みについて理解する。 ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを理解する。 ③専門職業人として必要な必要な社会福祉の基本的な知識を習得する。		2	●							○	○	○			◎									
		9035	地球の生態学Ⅰ（地球環境論入門）	環境が人類の生存と活動にどのように関わっているかを理解するには、生物と生物をとりまく諸現象の関連について多少なりとも認識する必要がある。地球環境にかかわる諸問題に共通する自然科学的原理を通して、自然環境の本質的な意味を理解し、人類を含む生物の生存について考える。単に個々の知識の習得のみならず、環境問題に対する「科学的なものの見方・考え方」を養うことを目的とする。	①生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について述べることができる。 ②地球環境問題群の全体像と相互作用について列挙できる。 ③主な地球環境問題について、その原因と影響について述べることができる。		2	●							○		◎			○									
		9036	地球の生態学Ⅱ（地球環境論演習）	広範な課題である地球環境問題について、身近な問題を対象に種々のデータ処理や分析をとおして理解する。「地球の生態学Ⅰ」で培った「地球規模で考える力」を「足下から行動する力」へと導き、問題を定量的・定性的に把握する能力、問題の所在を発見する能力、問題を解決する能力を育成する。主に、生物の成り立ちや進化・適応、個体群や群集レベルにおける生物と環境との相互関係、生態系の構造と機能などについて学習し、人類の生存にかかわる重大な課題である地球環境問題に関する認識を深める。	①生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について説明できる。 ②生物進化の概念を理解し、進化を引き起こすメカニズムについて説明できる。 ③生態系の食物網や物質循環・エネルギー収支について述べることができる。		2		●						○		◎			○									
専門教育の基盤となる科目群		9041	生物学	生命体には栄養摂取（消化器系）、エネルギー産生（呼吸器系など）、構成成分の代謝（合成・分解）、老廃物の処理（泌尿器系など）、内部環境や外部環境に対する反応・調節（感覚器系、神経系、内分泌系など）、生体防御（循環器系など）、生殖、遺伝（生殖器系）、個体の発生（初期発生、成長、成熟および老化）などの現象が見られる。これらの現象が生物個体の基本単位である細胞およびそれらの集合した器官系、さらに種の基本単位である個体においてどのように行われ、相互にいかなる関係をもつかについて説明する。さらに、生物集団における環境に対する反応・調節・防御様式および種族維持について学習する。	①細胞小器官など細胞に存在する構造体の形態･機能的特異性および生命活動におけるそれらの構造体間の相互関係について把握する。 ②各組織における細胞および細胞間物質の種類、構造・配列等の特異性について整理し、各組織の機能的特長に関係づける。 ③各器官系の全体的体制および器官系各部の構造･機能的特異性を把握し、さらにそれら器官各部位を構成する各組織の存在様式およびそれらの相互関係を比較検討する。 ④各器官系の個体における構造･機能的位置およびそれらの時間的変化について把握する。 ⑤個体集団の構造および地球環境の中での集団のあり方について考察する。		2	●									◎			◎		◎	○			○			
		9042	物理学	理学療法を行うには、身体機能の障害だけではなく、それに伴う心理的問題をはじめとする多様で複雑な要因を考慮する必要がある。そのため、理学療法士を目指す者は、豊かな人間性を培い、科学的思考を基に、率先して問題解決ができることが求められている。 物理学は、自然科学の一分野である。自然界に見られる現象には、人間の恣意的な解釈に依らない普遍的な法則があると考え、自然界の現象とその性質を、物質とその間に働く相互作用によって理解すること（力学的理解）、および物質をより基本的な要素に還元して理解すること（原子論的理解）を目的にする。 従って、物理学の学習は、科学的思考を基に問題解決ができる力の育成に大きく寄与するものである。	①速さと時間と移動距離の関係をグラフや式に表すことができる。 ②速度の合成・速度の分解・相対速度等についてベクトルや三角関数を使って説明ができるとともに速度等に関する問題を解くことができる。 ③等加速度直線運動における加速度の正負をふまえた「速度と変位（移動距離）」の関係をグラフと式で表すことができるととも等加速度直線運動に関する問題を解くことができる。 ④自由落下・鉛直投げ下ろし・投げ上げ・水平投射・斜方投射等の落体の運動には重力加速度が常に介在していることが理解できる。「速度・時間・変位（移動距離）」の関係を式に表し問題を解くことができる。 ⑤物体にはいろいろな力がはたらいていても、その物体が静止しているときは、いろいろな力は「つりあっている」ことを理解することができる。 ⑥「いろいろな力のつりあい」を「力の合成・分解」の手法を使って、理解することができる。 ⑦目に見えない「いろいろな力」を見つけ、ベクトルで表すことができる。		2		●								○		◎			◎	○		○	○	○	○
		9043	統計学	統計学はバラツキを伴う情報を客観的に分析し、評価する学問である。その統計学には「情報の基本構造を明らかにする機能」（記述統計学分野）と「少数の情報から全体を推し量る機能」（推測統計学分野）とがある。本講義ではこれら二大機能について講述するとともに、身近なデータを用いて各種の統計処理を受講生に体験させる。よって、統計データの適切な取り扱い方や統計的手法の正しい利用法などについて基礎智識を習得させることを目標とす	①簡単な確率の計算と応用問題が解ける。 ②連続的データのヒストグラムを作図できる。 ③代表値の平均、メジアン、モード等を求めることができる。 ④箱ひげ図を描くことができる。 ⑤正規分布について説明ができる。 ⑥標準化や標準化法についての説明や計算ができる。 ⑦偏差値を求めることができる。		2		●								○			○							○	◎

			る。なお、当該科目は次年度履修予定の”医療統計学（必修科目）”の前提科目となるので、単位を修得できるよう努力すること。	⑧基準値について説明ができ、値を求めることができる。 ⑨仮説検定法について説明ができる。 ⑩ｔ検定（2群間の平均値の差の仮説検定）ができる。																								
	9044	感染予防	感染症とその予防について学ぶ。まず病原性微生物によって感染が起こる仕組みとヒトの感染防御機構について学ぶ。ついで感染症に関するわが国の法律，医療施設や介護福祉施設における院内感染の経路とその予防対策，理学療法士が医療従事者として知っておくべき基礎的な感染予防に関する知識，定期予防接種の目的と意義について学ぶ。	①病原性微生物　とくに院内感染の原因となる微生物についての理解 ②院内感染の経路とその予防 ③医療関連施設や介護施設で働く従事者個人の守るべき注意事項と果たすべき役割 ④感染症についてのわが国の法律(感染症法) ⑤院内で使用される各種消毒薬についての知識 ⑥定期予防接種と任意予防接種の意義と対象となる疾患 ⑦感染性疾患（ウイルス性肝炎，プリオン病）	1		●									○			○		○	◎			◎	○	
	9045	生命倫理	医療技術の目ざましい発展により、延命、健康の維持・増進、出産といった希望が叶えられるようになった半面、解決しがたい社会的、倫理的な問題に人々は直面するようになった。これらに医療従事者がどう取り組むべきかを、テクストの熟読と討論を通じて考えていく。 　なお、この講義は、発表形式で行う。	①生命倫理の諸問題を理解すること。 ②生命倫理の諸問題を論理的に考察できるようになること。 ③医療現場の問題を具体的で現実的に想像し、bestの医療ではなくbetterの医療として患者にどうかかわるのかを、包括的に考えること。	1			●						○	◎	○			○	◎						○	
	9046	安全管理論	理学療法士の職域は拡大し、職場に応じた安全対策について理解していることが必要である。そこで医療安全について学び、安全文化を形成するための、施設組織および実践活動のシステムの理解を深める。その上で危機状態の問題解決、システム変革などの基本的方策を学習する。	①医療事故について理解している。 ②理学療法業務における事故防止について理解している。 ③医療機関における安全対策についてその仕組みを説明できる。 ④在宅における安全対策についてその仕組みを説明できる。 ⑤組織的な安全管理体制について理解している。	1						●					○			○			○				◎	
コンピュータリテラシーに関する科目群	9051	情報リテラシⅠ	大学生の勉学と日常の生活に必要なWindowsやネットワーク（電子メールやWebブラウザ）の基本操作、ならびにアプリケーションソフト（Office 2010）の基本操作・実践的な活用法を実習する。また、ブラインドタッチによるキーボード入力の練習を行い、10分間500字以上の達成を目指す。	①情報リテラシおよび情報倫理に関する基本的知識を得る。 ②インターネットを利用してWEB情報の収集ができる。 ③Word・Excel・Powerpointの基本操作が行える。	2		●							○		○	◎	○								◎
	9052	情報リテラシⅡ	アプリケーションソフトの実践的な操作を実習させる。文書作成・表計算・プレゼンテーションのスタンダードソフト「Office2010」を活用し、情報リテラシⅠをベースにレポート作成やデータ処理等が自在にできるレベルまでの到達を目標とする。課題を毎回の授業で与え、初歩的な段階から高度な操作まで段階的に解説する。	①効果的な文章作成ができる。 ②データの特徴を数量的、視覚的に示すことができる。 ③統計学の基本的な考え方を用いてデータ分析が行える。		2		●						○		○	◎	○								○
	9053	情報処理Ⅰ	表計算ソフトを用いて、データ分析、グラフ作成ができることを目標とする。また、医療関連の研究論文で扱われる基本的な統計量に関する関数機能について解説し、関数機能の活用ができるようになることを目標とする。	①複雑なデータの特徴を数量的、視覚的に示すことができる。 ②統計学の基本的な考え方を用いてデータ分析が行える。 ③代表的な仮説検定法について説明できる。		2			●						○		○	◎	○								○
	9054	情報処理Ⅱ	データベースについて解説する。データベースの概念について理解し、データベースソフトの基本的な操作が行えることを目標とする。また、「情報処理Ⅰ」で培った基礎的な論文解釈力に加え、医学論文を読む人の立場から、エビデンスに基づく医療を実践できるために必要な統計結果の解釈法を身につけることを目指す。	①データベースの概念について述べることができる。 ②データベースソフトの基本的な操作が行える。 ③基本的な統計処理の結果について読み取ることができる。		2				●				○		○	◎	○								○
	9061	英語Ⅰ（基礎英語および英語表現）	大学生に必要な基礎的な英語を、欧米で編集されたテキストとオーディオ教材を通して段階的に学習する。 言葉の学習のみならず、テキストやビデオに登場する様々な人々の言動や背景を通して外国事情を理解し、国際感覚を養う。		2		●									○	○	◎							△	△
	9062	英語Ⅱ（口語表現）	英語１で習得した英語力、知識をさらに高める。			2		●								○	○	◎							△	
	9063	英語Ⅲ（英語表現･ビジネス英語）	本年度は開講しない			2			●							○	○	◎							△	
	9066	英語コミュニケーションⅠ	English conversation for elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.		2	●									○	○	◎							△	
	9067	英語コミュニケーションⅡ	English conversation for high elementary level English students. All classes are taught in English. The class is heavily focused on maximizing students' communication time.	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.		2		●								○	○	◎							△	
	9068	英語コミュニケーションⅢ	English conversation for high elementary and intermediate level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.		2			●							○	○	◎							△	

外国語科目群	9071	ドイツ語入門Ⅰ	あかずきんちゃんが住み、 シンデレラ城のモデルのお城があるドイツ、クラッシックとクラブミュージックの共存する音楽の国ドイツ、かと思えばベンツやバイエル製薬などの最先端企業持つ国ドイツ、また原子力発電所撤廃など、世界のエコをリードしているのもドイツです。ドイツはいろいろな顔を持っています。そんな国で話される「ドイツ語」を話せるようになると、けっこうかっこいいと思いませんか？ この授業では、すぐ覚えられる、簡単なドイツ語を勉強しながら、ドイツという国を知り、日本とはちょっとちがう暮らし方、生き方を経験します。 豊橋はまた、ドイツ文化協会があったり、交換留学生が住んでいたりと、 ドイツとの交流が盛んです。もしかすると、地元でドイツ語を使う機会があるかもしれませんよ。	①　ドイツ語らしい発音ができる。 ②　ドイツ語の数字や簡単なあいさつができる。 ③　ドイツ語で数字が言える。 ④　自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。 ⑤　ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。		2	●										○	○	○									
	9072	ドイツ語入門Ⅱ	外国語の勉強は、ほかの勉強以上に皆さんの脳を刺激し、はば広いものの見方、考え方を教えてくれます。 ドイツ語はローマ字読みが基本です。また、初歩的なきまりさえ理解すれば、あとは単語を覚えるだけですぐに簡単な会話ができるようになる言葉です。 前期にドイツ語を履修していた方は、復習しながら、前期とは違った、さまざまなドイツ語の言葉や会話の表現の練習ができるでしょう。 いろいろなドイツ文化のお話も紹介していきます。 日本の違いに驚いたり、合理的なドイツのライフスタイルを経験したりして、いいところはどんどん吸収し、日本のよさにも改めて気づいて、自分磨きのヒントにしてみてください。	①　ドイツ語らしい発音ができる ②　ドイツ語で数字や簡単な挨拶が言える ③　場面に応じたドイツ語が理解できる ④　会話に必要な文法の基礎事項が理解できている ⑤　ドイツの社会や文化などを知り、教養を深める		2		●									○	○	○									
	9073	ドイツ語初級Ⅰ	本年度は開講しない			2			●								○	○	○									
	9074	ドイツ語初級Ⅱ	本年度は開講しない			2				●							○	○	○									
	9076	中国語入門Ⅰ	中国語の発音と基本的な文法知識を学びます。 中国語の発音とピンイン（中国式ローマ字綴り）を学びつつ、さらに初歩的な文法事項を身につけていきます。	中国語の発音とピンイン（中国式ローマ字綴り）を習得する。		2	●										○	○	○									
	9077	中国語入門Ⅱ	中国語の実用的な表現・フレーズを学ぶことによって、基礎的な語学力を固めていきます。	教科書の表現を正確に大きな声で発話することができ、関連文法事項を理解する。 中国語検定準4級～4級程度。		2		●									○	○	○									
	9086	医学英語	医療現場での英会話を扱ったビデオやCDを補助教材とするテキストを使い、理学療法や看護のコミュニケーションに必要な医療英語の表現法や語彙を習得する。		2					●							○	◎	○							◎	◎
健康の維持向上・管理に関する科目群	9091	スポーツⅠ（体力向上）	適切な身体運動・スポーツ活動は心身に良い影響をもたらす。 　本授業を通して、スポーツの楽しさをより深く理解するために必要なルールやマナー、スポーツの技術を習得し、健康・体力の維持増進をはかる。	仲間と協力し、生涯にわたるスポーツの実践に向けてのきっかけとなることを目指す。	1		●								◎	○	○		○								
	9092	スポーツⅡ（スポーツを楽しむ）	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり 、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。 　本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。 以上の内容を実習形式で行う。	①各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。 ②より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図れるようになる。		1	●								◎	○	○									
	9093	健康科学Ⅰ（健康自己管理）	長寿、超高齢社会の到来とともに病気、健康、体力の概念も変化している。また、社会環境の変化に伴い疾病構造も感染症から生活習慣病へ変わってきた。人々のライフスタイルに起因するといわれる生活習慣病を予防、改善するには、運動、栄養、休養のバランスのとれた生活習慣が必要である。 本授業では、人体のしくみおよび運動や栄養が健康づくりに果たす役割についての知識を身につける。	①生活習慣病を中心とした健康問題に関する知識を身につける。 ②健康維持・増進のための疾病予防・対策法を身につける。 ③他者に習得知識を的確に教授できる基礎的能力を身につける。	1		●								○		◎			○	◎	○	○					
	9094	健康科学Ⅱ（生活と健康管理）	長寿、超高齢社会の到来とともに病気、健康、体力の概念も変化している。また、社会環境の変化に伴い疾病構造も感染症から生活習慣病へ変わってきた。人々のライフスタイルに起因するといわれる生活習慣病を予防、改善するには、運動、栄養、休養のバランスの取れた生活習慣の必要である。 本授業では、春学期開講の「健康科学１（Ⅰ）」で学習した基礎知識をもとに、健康に関する分子・遺伝学的知識についても把握することで、人体のしくみ・健康づくりのメカニズムに関してより高度な知識を持たせる。	①からだのしくみに関する分子・遺伝学的知識を身につける。 ②健康長寿のための健康維持・疾病対策法を身につける。 ③他者に習得知識を的確に教授できる実践応用能力を身につける。		2		●								○		◎			○	○	○	○					

人体の構造と機能及び心身の発達	9101	解剖学Ⅰ	解剖学はヒトの体制を正常な構造を通して理解しようとする学問であり、医療技術の修得を志す学生にとっては不可欠の基礎的分野である。個体には特異的な形態・機能をもつ要素“器官”があり、複数の器官が特定の働きをする構造“器官系”を構築している。本講義では、人体を構成する１０種ほどの器官系の中で、理学療法において最も基礎となる“運動器系（骨格・靭帯・筋系）の構造と機能およびその力学的しくみに重点を置いた講義をする。さらに、運動器系と神経・感覚器系および循環器系と の相互関係について概説する。	①骨の組織構造および骨再構築について説明できる。 ②骨膜、筋膜および靭帯の組織学的特徴を説明できる。 ③軟骨および筋の種類とその組織学的特徴を説明できる。 ④各骨の全体的構造と荷重との関連について説明できる。 ⑤体幹および上肢の筋および靭帯の各骨付着部の名称、およびそれらと筋・靭帯の機能との関連を説明できる。 ⑥関節の構造とその可動域との関連について説明できる。 ⑦体幹および上肢の筋の起始・停止が言える。 ⑧体幹および上肢の筋の神経支配について説明できる。	2		●												◎	◎	○			○	◎	
	9102	解剖学Ⅱ	解剖学1に引き続いて、筋系（下肢）、神経系、感覚器系、内臓（消化器系、呼吸器系、泌尿・生殖器系、内分泌系）、循環器系（心臓、血管系、リンパ系）および感覚器系を構成する各器官の構造および位置関係について講義する。さらに、生物学にて学習した４種の組織“上皮・支持・筋・神経組織”の各器官系における配列様式について学習する。	下肢の筋の起始・停止について言える。 下肢の筋の起始･停止、靭帯および関節の構造と関節の可動域との関係について説明できる。 中枢・末梢神経系の全体的構造と各部の構造･名称・機能が言える。 体制神経系および自律神経系の特性を比較説明できる。 ブロードマンの脳地図と各部位の機能について関連ずけできる。 錐体路および錐体外路について説明できる。 体循環および肺循環系について説明できる。 心臓の構造（心房、心室、心臓骨格系、刺激伝導系）を説明できる。 大動脈弓、下行大動脈、総腸骨動脈の主な枝、上肢･下肢の動脈について説明できる。 大脳動脈輪について説明できる。 伴行静脈ではない静脈について説明できる。 リンパ管系およびリンパ性組織･器官について説明できる。 眼球、蝸牛、半規管・前庭器官の構造について説明できる。 視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚および味覚の感覚受容部および伝導路について説明できる。 内臓および免疫系の各部の名称および構造･機能について説明できる（生物学参照）。	2			●											◎	◎	○			○	◎	
	9105	生理学Ⅰ	医療に携わる者として、最低限の知識として正常な生体機能について正しく理解していることが必要である。そこで、生命現象の中において正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかを統合的に理解するために、1個1個の細胞の機能を学び、細胞の集合体である組織、器官そしてそれらが有機的に結合して発揮される生体機能へと理解を深める。まず、一般的な細胞の生理機構を学んだ後、血液および体液、骨格筋、循環器系、呼吸器系および泌尿器系を中心に学習する。	①一般的な細胞の生理機構、特に物質輸送と活動電位発生の仕組みを説明できる。 ②体液の概要と血液とリンパの成分とその役割について説明できる。 ③骨格筋の構造と収縮の仕組みを説明できる。 ④循環器系の概要ならびに心臓の構造と機能、血圧調節の仕組みを説明できる。 ⑤呼吸器系の構造とその機能を説明できる。 ⑥尿排泄系の構造とその機能を説明できる。	2		●											◎	◎	○			○	◎	
	9106	生理学Ⅱ	生理学Ⅰに引き続き、正常な生体機能についての理解を深めるために、ここでは神経系（中枢神経系および末梢神経系）、内分泌系、体温調節機構、消化吸収機 構および感覚系を中心に学習し、正常な生体機能とその調節の仕組みを体系的かつ統合的に理解する。さらに、人体の生理機能を維持するために必要な生命現象 としての恒常性（ホメオスタシス）の重要性について理解を深めると共に、専門的臨床科目の学習のための基礎知識を習得する。	①酸塩基平衡とその仕組みを説明できる。 ②神経細胞、中枢神経系および末梢神経系など神経系の構造とその機能を説明できる。 ③体温調節機構を説明できる。 ④消化器の構造とその機能ならびに消化管ホルモンの機能を説明できる。 ⑤内分泌腺とホルモンの作用機序を説明できる。 ⑥感覚器系の構造とその機能を説明できる。	2			●											◎	◎	○			○	◎	
	9109	解剖学実習	解剖学1，2において学習した人体構造への理解を深めるために、全体的な人体模型および各器官系の模型を用いて人体各部の立体構造を観察・理解する。組織・細胞レベルについては、細胞、組織および器官の基本構造を顕微鏡下にて観察し、各器官の共通性と特異的構造を理解する。さらに、他大学医学部において人体の解剖学実習や人体の解剖標本の見学を行い、直接人体の複雑さと統合性に触れ、生命の尊厳を考える実習を取り入れる予定である。	①器官系の全体的な構造および各器官系の位置関係について把握する。 ②模型観察により器官各部の立体構造および名称を確認し、それをイメージできるようにする。 特に骨実習では各骨模型をスケッチし、その立体構造と力学的観点との関係、さらに筋模型と関連させ筋の起始･停止部および靭帯の付着部を確認・記憶し、各関節の可動性を考察する。 ③顕微鏡実習では顕微鏡の構造および使用法を習熟し、各種細胞および４組織の各要素の特徴を見分けられるようにする。さらに、骨系、筋系および靭帯	1			●											◎	◎	○			○	◎	
	9111	生理学実習	生体機能の理解には、現象を詳細かつ的確に観察することや実験により確認することが重要である。そこで、生命現象の中において正常な生体機能がどのような 機序で発現し、維持されているかを統合的に理解するための実習を行う。実習を通じて生体機能の発現およびその調節機構の基礎を理解することで、生理学１および生理学2における学習事項の理解を深める。また、基本的な実験手技、態度および実験結果に基づく考察法などもあわせて習得する。	①筋電図の記録法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ②血圧測定法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ③心電図の記録法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ④感覚の評価法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ⑤肺機能検査法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ⑥運動負荷試験法とそのデータの生理学的意義を説明できる。 ⑦実習事項をレポートにまとめることができる。	1			●											◎	◎	○			○	◎	

専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	9113	応用生理学	生理学Ⅰ、生理学Ⅱおよび生理学実習において正常の生体機能とその調節の仕組みに関する知識を獲得した後、人体が様々な環境に曝された場合の適応について学習し、生命現象の理解を深めるための講義を行う。ヒトが遭遇しうる特殊環境である宇宙環境（無重量環境）および暑熱環境などに曝された時の人体機能の適応変化を中心に、生体機能の適応変化のメカニズムと正常機能を維持する仕組みについて、最新の研究結果をもとに理解する。また、疾病時や運動時など人体内部環境の変化による生体機能の適応のメカニズムとリハビリテーションに必要な運動器系の修復機構についてもあわせて学習する。	①特殊環境下における人体の適応を説明できる。 ②骨格筋の可塑性を説明できる。 ③代表的な疾患（高血圧、代謝性疾患、発熱、骨粗鬆症）の生理を説明できる。 ④再生医療の現状とその意義を説明できる。	2			●											◎	○	◎			◎	○	
		9115	臨床心理学	精神的な問題を抱える個人の症状を心理学の知識と技術を用いて、客観的に理解し、適切な援助を行うための基礎的知識・技術を習得することを目標とする。臨床心理アセスメント、心理療法及びコミュニティ援助を取り上げ、解説する。臨床心理アセスメントについては知能検査や質問紙法や投映法などを解説し、心理療法については、精神分析療法、クライエント中心療法、行動療法、森田療法、認知療法、論理療法、家族療法、短期療法、遊戯療法、箱庭療法、芸術療法などを解説する。コミュニティ援助に関しては、コミュニティ援助の方法、領域、活動について解説する。	①臨床心理学と関連の深い心理・社会的発達、学習の過程に関する代表的な理論について概略を説明できる。 ②代表的な心理アセスメントについて、列挙し、概略を説明できる。 ③代表的な心理療法について、列挙し、概略を説明できる。 ④コミュニティ援助に該当する代表的な活動を列挙し、説明できる。	2			●											○	◎	◎			○	○	
		9117	人間発達学	出生から乳幼児期、学童期を経て成人に至る心身の成長と発達の過程、ならびにこの時期の環境は後の発達過程にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。また、乳幼児期に心身の発達発育障害を起たす主要な原因を取り上げ、さらに小児の先天性代謝異常、内分泌代謝異常、呼吸器疾患、循環器疾患、運動器疾患など、心身障害児の理学療法を行う上で特に必要となる基礎的事項を中心に学習する。	①各ライフステージにおける身体的変化・運動機能について説明できる。 ②感覚・知覚機能の発達について説明できる。 ③認知機能の発達について説明できる。 ④心理・社会的機能について説明できる。 ⑤小児の代表的な疾患について説明できる。	2				●										◎	◎	◎			○	◎	
		9121	内科系障害学Ⅰ	内科学総論について以下の順で学ぶ：1. 内科学概論。 2. 心臓の解剖と機能，血圧，脈拍，体循環，肺循環，主要な症状。3. 腎疾患，水電解質代謝異常，腎不全の病態，尿毒症，主要症状。4. 肺の構造と機能，主要症状，呼吸器疾患の検査，スパイログラム。5. 消化管疾患。6. 肝・胆・膵疾患，門脈圧亢進症，肝不全，肝性昏睡。7.血液・造血器疾患 8.代謝性疾患。9. 内分泌の働き，視床下部ー下垂体系。	①心臓の解剖と機能，心不全について説明できる。 ②高血圧の診断基準を理解している。 ③腎の解剖と機能，糸球体と尿細管の構造と機能，腎不全，尿毒症について理解している。 ④肺の構造と機能，呼吸性アルカローシス，アシドーシスについて説明できる。スパイログラムの結果を評価できる。 ⑤食道，胃，腸管の構造と機能を理解している。 ⑥肝・胆・膵の解剖学的関係と働きを理解している。門脈圧亢進症について説明できる。 ⑦末梢血の正常値を記憶している。 ⑧糖代謝・脂質代謝異常の一般的な理解， ⑨視床下部ー下垂体系の働きとその障害による疾患，及びその症状について説明できる。	2			●											◎	○	◎		◎	○	◎	
		9122	内科系障害学Ⅱ	各種内科系疾患の概要について学ぶ。循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患，消化器疾患、肝・胆・膵疾患，内分泌代謝疾患，血液疾患，膠原病，感染性疾患などのうち主要な疾患の成因，病態，症状，治療の概要について学ぶ。また生活習慣病とその予防について解説する。とくに理学療法士としてより深い知識が要求される虚血性心疾患と呼吸器疾患疾患については詳しく学ぶ。	①虚血性心疾患の病態，症状について説明できる ②典型的な症例（狭心症，心筋梗塞，心房細動，心房粗動，上室性期外収縮，心室性期外収縮，WPW症候群，房室ブロック，右脚ブロック，左脚ブロック）の心電図を判読できる.。 ③慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態と症状及び治療について説明できる。 ④慢性腎不全，尿毒症の診断と症状について理解できている。 ⑤H.Pyloriと委縮性胃炎，胃十二指腸潰瘍，胃癌との関連についての知識がある。 ⑥糖尿病の診断基準，HbA1c値の意義，食事療法と運動療法について説明できる。	2				●										◎	○	◎		◎	○	◎	
		9125	筋骨格系障害学Ⅰ	理学療法士として必要な筋骨格系障害学に関する知識の修得を目標とします。本講では総論と各論（炎症性疾患、代謝・内分泌・退行性疾患、先天性骨・関節疾患、循環障害と壊死性疾患、骨・軟部腫瘍、神経・筋疾患）等について学習します。		2			●											◎	○	◎		◎	○	◎	
		9126	筋骨格系障害学Ⅱ	理学療法士として必要な筋骨格系障害学に関する知識の修得を目標とします。本講では、筋骨格系障害学Ⅰに引き続き、各論（骨折、脊髄損傷、関節の外傷性疾患、末梢神経の外傷性疾患、腱・靭帯の外傷性疾患、スポーツ障害、熱傷、切断と離断）等について学習します。		2				●										◎	○	◎		◎	○	◎	
		9129	神経系障害学Ⅰ	神経学の基礎的事項について学ぶ。1.神経解剖学の基礎と臨床との繋がり。2. 神経診断学とは。3.意識障害，失外套症候群，無動性無言，閉じ込め症候群。脳死と植物状態。4. 高次脳機能障害と大脳の局在。5. 脳神経とその働き。6. 随意運動の経路とその障害。7. 体性感覚の経路とその障害。8. 小脳の機能とその障害。9. 神経学的検査（画像診断，電気生理学的検査，脳脊髄検査）	①意識障害（Japan Coma Scale，Glasgow Coma Scaleによる評価ができる）。 ②脳神経とその働きを理解している。脳神経の診かたと障害により出現する神経症状を説明できる。 ③左右大脳半球の働きの違い，大脳の局在とその病変により出現する神経症状を理解している。 高次脳機能障害について理解ができている。 ④上位運動ニューロンと下位運動ニューロンの障害による神経症候について理解できている。 ⑤ 錐体外路系についての知識。 ⑥小脳の構造と機能について説明できる。 ⑦体性感覚の伝道路ならびに病変部位と出現する感覚障害を説明できる。分節性感覚障害の知識 ⑧ CT・MRIの正常像の読影。	2			●											◎	○	◎		◎	○	◎	

		9130	神経系障害学Ⅱ	各種神経疾患の成因と主要症候，　臨床経過，予後，治療について学ぶ。脳出血・脳梗塞・くも膜下出血などの脳血管疾患，筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロン疾患，多発性硬化症など脱髄疾患，パーキンソン病など錐体外路系疾患，筋ジストロフィー症などの筋疾患，脊髄小脳変性症などの変性疾患，ギラン バレー症候群や多発ニューロパチーなどの末梢神経疾患，アルツハイマー病，血管性認知症，Lewy小体病，正常圧水頭症など認知症を呈する疾患，脳腫瘍，髄膜炎・脳炎・プリオン病など感染性疾患などについて学ぶ。とくにリハビリテーションを行う上で関連の深い疾患についてはより詳しく学ぶ。	1. 脳血管疾患の病態，病変部位と出現する症状について説明できる。 2. Parkinson病の初発症状，Hoehn-Yahrの重症度分類，l-dopa長期服用者でみられる神経症状について説明できる。 3. 多発性硬化症でみられる症状， 4. 多発ニューロパチーの感覚障害の特徴， 5. Guillain-Barre症候群の神経症状と経過， 6. 筋ジストロフィー，筋強直性ジストロフィーの症状と経過， 7. 重症筋無力症，ボツリヌス療法， 8. Broen-Sequard症候群において病巣側と対側にみられる神経症状，馬尾円錐症候群，腰部脊椎管狭窄症，後縦靭帯骨化症，脊髄中心症候群，前脊髄動脈閉塞症でみられる神経症状について説明できる。	2					●										◎	○	◎		◎	○	◎	
		9133	リハビリテーション医学	理学療法士として必要なリハビリテーション医学に関する知識を、総論・各論の各項目別に修得します。		2				●											◎		◎			◎	◎	
		9135	病理学			2					●										◎		◎			◎	◎	
		9137	精神医学	精神疾患は誰でもかかる可能性のある疾患で、適切な治療の継続により、その症状は相当程度安定化し、軽快または治癒する病気です。理学療法対象者は、身体障害とともに統合失調症、気分障害（脳卒中後うつ病など）、アルコール/薬物依存症、認知症、せん妄、高次脳機能障害、睡眠障害などを併存していることが少なくありません。そこで、様々な精神症状、および各精神疾患/障害の臨床症状、転帰、治療法を学習し、併せて精神医療の現状と課題について学習します。	①精神医療の現状を理解する。 ②意識、知能、記憶、気分、行動、自我意識、知覚、思考の各障害名を挙げ概要を説明できる。 ③症状性を含む器質性精神障害の疾患名と臨床症状、経過、治療について説明できる。 ④統合失調症の臨床症状、経過、治療について説明できる。 ⑤気分障害の臨床症状、経過、治療について説明できる。 ⑥心因性精神障害の疾患名と各臨床症状、経過、治療について説明できる。 ⑦摂食障害、発達障害、人格障害、睡眠障害の各臨床症状、治療について説明できる。	2						●									◎		◎			◎	◎	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	9141	公衆衛生学	衛生学・公衆衛生学は、その対象が人間生活全般に及ぶ学問である。近代社会において、人々の健康がどのような条件の下で保持され、その増進のためにどのような努力がなされているかを理解する。 公衆衛生学では、しばしば統計データが現れるので、学生にとって統計の知識は必須である。知識不足の学生が多いときには、統計学の基礎を講義する。	我が国の公衆衛生について概略を説明できるようになる		2	●												◎					◎	○	
		9143	リハビリテーション概論	理学療法士として必要なリハビリテーションの概念と基礎知識を概論的に学習します		2		●													◎		◎			◎	◎	
		9201	医療統計学	将来の学習や研究に役立つ基本的な統計知識を持てることを目標におく。 先ずは学生の統計的なレベルを調べる。統計学だけでなく、数学の勉強が必要であれば、そちらについて補習する。統計学の勉強をする準備が整った後わかりやすく統計的な考え方を紹介し、一歩一歩学習を進め、基本的な知識から実用的な知識の習得に努める。	①パラメトリックとノンパラメトリック検定の違いを説明できる。 ②対応のある２群間のデータで、パラメトリックとノンパラメトリック検定ができる。 ③対応のない2群間のデータで、パラメトリックとノンパラメトリック検定ができる。 ③２群のデータが等分散か、不等分散か仮説検定法を用いて判定できる。 ④カイ平方により2群以上データの適合度・独立性の検定ができる。 ⑤一元配置・二元配置の分散分析ができる。 ⑥共分散の値を求めることができる。 ⑦ピアソンの相関係数を求めることができる。 ⑧スペアマンの相関係数が求めることができる。 ⑨最小二乗法による直線回帰式を求めることができる。 ⑩パソコンを利用して簡単な統計データ処理ができる。	2				●									○						○	◎
	基礎理学療	9209	運動学　Ⅰ	人間が運動する場合、筋・骨格系のみではなく神経系、呼吸循環器系などが関与している。そこで、本授業では、運動学の定義や理学療法との関わり、身体運動における生体力学、運動に伴う筋・骨格系、神経系を中心とした構造と機能を総合的に学習する。また、姿勢や歩行など人体の運動・動作における身体運動のメカニズムやその基本的な分析方法を学習する。	①理学療法学の基礎科学としての運動学の重要性を説明できる。 ②身体運動を力学的視点（ベクトル、テコの原理、力のモーメントなど）で説明できる。 ③骨関節、筋、神経系の基本構造と機能について説明できる。 ④姿勢制御の基本的な考え方と姿勢の安定性について運動力学的に説明できる。 ⑤歩行の運動学・運動力学的特徴を説明できる。 ⑥身体運動の基本的な分析法について説明できる。	1			●											◎	◎					◎	
					①骨運動学に基づく運動と、関節運動学に基づく関節包内運動を説明できる。																							

	法学	9210	運動学　Ⅱ	運動学Ⅰにおける学習内容を基に、上肢、下肢と体幹の関節構造について理解を深め、各論として、各関節における運動メカニズムの原理と特徴について学習する。また、身体の部位別に骨運動学と関節運動学の視点から人体の正常な構造・機能と運動との関係を理解することにより、各関節の機能障害が身体運動に与える影響について学習する。	②肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における構造と機能について説明できる。 ③肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動について説明できる。 ④肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動と靭帯および筋の作用について説明できる。	1			●											◎	◎					◎	
		9204	運動学実習	人体の機能解剖を理解し、運動の観察、分析を行うことは、運動障害のある人の問題を解決するための第1歩になる。本授業では、運動学Ⅰ・Ⅱで学習した人体の構造と機能と運動の関係について、実習を通じてそのメカニズムの理解を深める。また、実習では、観察による人の基本的な動作分析を行い、さらに、各種計測機器を用いて身体の運動・動作を測定し分析する。分析結果は運動学的、運動力学的な視点を基に考察しレポートを作成する。	①観察による身体動作の初歩的な分析（運動学的・運動力学的）を行うことができる。 ②安静立位姿勢における重心の安定性と動的バランスとの関連性について説明できる。 ③基本的姿勢を観察し「体位」と「構え」で記載することができる。 ④様々な筋収縮形態と筋力の関節について説明できる。 ⑤歩行における時間距離因子や運動学的因子の正常パターンについて説明できる。	1			●											◎	◎					◎	
		9206	臨床運動学	解剖学、生理学、運動学で学んだ基礎知識をもとに、筋骨格系における形態学と運動・動作との密接な関連性、構造と不可分な機能との連携の重要性を学ぶ。また、基本的な動作を運動学的に分析し、ADL自立、QOL向上のための理学療法を考える。	①正常歩行を説明できる。 ②病的歩行における正常からの逸脱につい説明できる。 ③各疾患における歩行の特徴を説明できる。 ④観察による歩行分析を説明できる。 ⑤機器を用いた歩行分析について説明できる。	2				●										◎	○	◎				◎	
		9208	理学療法学概論	理学療法とは何か? 理学療法士とは? どのような専門性を持った職種なのか? の理解を深めるため、理学療法学がどのような学問体系から成り立っているのか学習し、関連する専門科目を学ぶための導入部分を概説する。理学療法を必要とする対象者の全体像を理解し、対象者に必要な介入のための基礎的方法を理解する。そのために障害の一部を体験し、テキストを各自で読み進め、ノートをまとめる。	①理学療法(PT)とは何かを説明できる。 ②PTの学習で基礎となる関連科目の概要を説明できる。 ③関連科目の学習方法を説明し、実施できる。 ④PTの対象者をあげ、障害の内容を簡単に説明することができる。 ⑤教科書を読み進めることができる。	2		●												◎	○		◎	○		◎	
	理学療法評価学	9211	理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価は患者病状、病態、障害などの特徴や重症度を測定し、それらを統合解釈することで問題点を抽出、目標を設定し、治療方針・計画を立案するプロセスです。理学療法を実践の極めて重要なものです。疾患や障害のとらえ方、情報収集から治療実践にいたるプロセス全般の理論を学び、代表的な評価手法を理解し実践できるような知識を学びます。併せて既習の解剖学、運動学を有機的に結びつけながら展開していきます。	①理学療法評価の意義/目的、手法を理解する。 ②ICIDH,ICFによる障害モデルを理解する。 ③形態測定の意義と目的、測定方法を理解する。 ④関節可動域測定の意義と目的、測定方法を理解する。	2			●											○			○	◎	○	◎	
		9212	理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価は患者の病状、病態、障害などの特徴や重症度を測定し、それらを統合解釈することで問題点を抽出、目標を設定し、治療方針・計画を立案する、理学療法を実践の極めて重要なものです。秋学期は、徒手筋力検査法を中心にバイタルサイン、知覚検査、脳神経を学習し、理学療法評価学Ⅰで学習した検査を含め、基本的な評価手技を総合的に展開するための理論を学びます。	①知覚検査の意義と目的、測定方法を理解する。 ②バイタルサインの意義と目的、測定方法を理解する。 ③脳神経の意義と目的、測定方法を理解する。 ④徒手筋力検査法の意義と目的、測定方法を理解する。 ⑤臨床における評価の総合的な展開と方法について理解する。	2				●										○			○	◎	○	◎	
		9215	理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法評価は患者の病状、病態、障害などの特徴や重症度を測定し、それらを逃亡解釈することで問題点を抽出、目標を設定し、治療方針・計画を立案するプロセスです。理学療法を実践の極めて重要なものです。本授業では基本的情報収集としての問診、形態測定（ランドマークの触知、四肢長、四肢周径）、関節可動域測定を実習します。	①基本的な問診、コミュニケーションをとることができる。 ②四肢のランドマークを正確に触知できる。 ③四肢長が正確に測定できる。 ④四肢周径が正確に測定できる。 ⑤関節可動域測定が正確に測定できる。	1			●											○			○	◎	○	◎	
		9216	理学療法評価学実習Ⅱ	理学療法評価は患者の病状、病態、障害などの特徴や重症度を測定し、それらを統合と解釈することで問題点を抽出、目標を設定し、治療方針･計画を立案するプロセスで、理学療法を実践の極めて重要なものです。授業は、前半は徒手筋力検査法を学び、後半は理学療法評価学で取り組んだ、形態測定、関節可動域測定を含め総合的に展開できるように総合演習、実習を実施します。	①上肢の徒手筋力検査法を正確に実施できる。 ②下肢の徒手筋力検査法を正確に実施できる。 ③頸部体幹の徒手筋力検査法を正確に実施できる。 ④障害特性に応じた徒手筋力検査法を連続して実施できる。 ⑤障害特性に応じて徒手筋力検査法、関節可動域測定、形態測定を組み合わせて実施できる。	1				●										◎			○	◎	○	◎	
		9225	運動療法学　Ⅰ	運動は心身機能に様々な影響を及ぼし、運動を用いた治療方法である運動療法は理学療法において重要な役割を果たしている。そこで、本授業では、運動療法の定義、目的、対象、種類、効果などについて学習する。さらに、運動による生体の反応を解剖学、生理学、運動学など基礎的知識に基づいて学習する。また、各種機能障害に対する運動療法の実践に必要な基礎知識を学習する。	①運動療法の定義、目的、対象、種類、効果などについて説明できる。 ②筋骨格系（骨・関節・筋）の構造と機能について説明できる。 ③神経機構、および運動系の神経系制御機構について説明できる。 ④呼吸器系の構造と機能について説明できる。 ⑤循環器系の構造と機能について説明できる。 ⑥代謝系の構造と機能について説明できる。 ⑦運動による各種生体反応（筋骨格系、神経系、呼吸器系、循環器系、代謝系）について説明できる。	1		●												◎		◎	○	○	◎	◎	

9226	運動療法学　Ⅱ	運動療法学Ⅰで学習した各種機能障害に対する運動療法の実践に必要な基礎知識を基に、関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動などの各種運動療法の基本的な進め方や内容を学習する。	①関節可動域運動の目的、種類、方法、原則、適応、禁忌について説明できる。 ②筋力増強運動の目的、種類、方法、原則などについて説明できる。 ③協調運動を可能にしている神経機構、および様々な協調運動の障害の成因について説明できる。 ④運動による呼吸・循環・代謝系の反応、およびそれらに関する運動療法について説明できる。	1				●											◎		◎	○	○	◎	◎	
9223	物理療法学	治療に用いる物理的エネルギーと生体の反応を理解し、物理療法の各種目の特性（生理学的作用、臨床的効果）を学習する。このため物理療法の定義、歴史、目的、原理と方法、合わせて効果的に治療を行うために適応、禁忌、リスク管理の必要性を理解して安全に治療を行うための知識を獲得する。	①物理療法の特性を説明できる。 ②物理療法の実施方法を説明できる。	2				●											◎		◎	○	○	◎	◎	
9224	物理療法学実習	実習を通して治療に用いる物理的エネルギーと生体の反応を実際的に理解し、効果的に治療を行うため治療機器の特性を理解し、具体的操作方法を理解し、適応、禁忌、リスク管理の実際を学習し安全に治療を実施するための方法を体得する。治療前・後の評価方法も合わせて学習する。	①物理療法機器を用いた治療方法を実施できる。 ②物理療法効果の評価方法を説明できる。	1				●											◎		◎	○	○	◎	◎	
9227	理学療法技術論	理学療法を行うためには、運動や動作の基礎となる生理学的な理論や運動学的知識が必要となる。この科目では数多く存在する理学療法技術の理論背景にある生理学的、解剖学的および運動学的な裏付けをその基礎的な部分を焦点に当て学習する。	①筋力増強の方法を説明できる。 ②関節可動域改善の方法を説明できる。 ③筋緊張異常に対する理学療法の説明ができる。 ④疼痛に対する理学療法の説明ができる。	2					●										◎			◎	◎	◎	◎	
9228	理学療法技術論演習	理学療法において基本となる筋力増強や関節可動域の拡大などの技術から、神経疾患や筋骨格系障害などの各疾患に特有の技術の理論的背景を理解し、各種の障害に対し適切な治療ができることを目的とする。実際の理学療法を取り上げ、その歴史的背景から基本的理論を習得する。また、独自の治療技術を構築するためのプロセスを演習する。	①各疾患に対する理学療法評価が選択できる。 ②典型的な筋骨格系疾患の理学療法が説明できる。 ③典型的な中枢神経疾患の理学療法が説明できる。 ④各疾患に対し適切な目標を設定できる。 ⑤各疾患に対応した適切な理学療法プログラムが作成できる。	1					●										◎			◎	◎	◎	◎	
9229	理学療法技術論実習	理学療法技術論および理学療法技術論で学んだ各種の理学療法の技術を適切に実施できるように実習形式で学習する。特に理学療法士に大切な人体に対する刺激の入力や支持の方法などの基本的な技術から、広い疾患に共通に必要な筋力増強や関節可動域改善、基本移動動作の獲得などの技術、各疾患に対応した理学療法手技を習得する。	①典型的な筋骨格系障害に対する評価項目をあげ実施できる。 ②典型的な筋骨格系疾患に対する理学療法プログラムを作成し実施できる。 ③典型的な中枢神経障害に対する評価項目をあげ実施できる。 ④典型的な中枢神経障害に対する理学療法プログラムを作成し実施できる。 ⑤評価や理学療法経過を適切に記録できる。	1						●									◎			◎	◎	◎	◎	
9231	日常生活活動学	日常生活活動の概念、範囲、意義を学習する。特に国際生活機能分類(ICF)との関係を理解して、日常生活の質を改善することの意味への理解を深める。日常の生活活動　(生活機能)　の障害程度を測定するための方法を学習し、障害像や障害程度により異なる日常生活活動への援助のための環境調整法や具体的介入方法を学習する。	①ICFの構造を説明でき、構造の中での日常生活活動の位置づけを説明できる 。 ②教科書的な方法でADLの評価方法を説明できる。 ③教科書的な疾患(片麻痺、脊髄損傷、切断、リウマチ、人工関節、小児疾患、高齢虚弱者等)のADL介入方法を説明できる。	1					●										◎		◎	○	○	◎	◎	
9233	日常生活活動学実習	障害ごとの日常生活活動上の具体例は各種理学療法でも学習するので、ここでは共通成分を取り出して体験学習する。日常生活活動の障害程度を測定するための方法を実際に体験し、障害像や障害程度により異なる日常生活活動への援助のための具体的方法を体験し、繰返し練習を行い、安全に実施できるようにする。	①ICFの構造を説明でき、構造の中での日常生活活動の位置づけを説明できる 。 ②教科書的な方法でADLの評価方法を実技できる。 ③教科書的な疾患(片麻痺、脊髄損傷、切断、リウマチ、人工関節、小児疾患、高齢虚弱者等)のADL介入方法を実技できる。	1					●										◎		◎	○	○	◎	◎	
9236	義肢装具治療学	補装具療法は理学療法治療における基本的介入手段の一つであり、その手技については正しく理解していることが必要である。そこで各種疾患において処方される補装具の特徴や治療目的に関する基礎的知識を学ぶ。また、義足については異常歩行が起こる原因、及びその対処方法について学習する。さらに補装具の役割や位置づけを医学や地域リハビリテーションの視点から理解を深める。	①下肢装具についてその特徴と治療目的を説明できる。 ②上肢装具についてその特徴と治療目的を説明できる。 ③頸部・体幹装具についてその特徴と治療目的を説明できる。 ④義肢の構造と特徴を説明できる。 ⑤ 正常歩行について理解し、義足歩行時の異常歩行について説明できる。	2					●										◎		◎	○	○	○	◎	
9237	義肢装具治療学実習	補装具の処方や製作過程、治療手技を体験することにより、その機能や適合判定について理解を深める。歩行補助具についても日常の生活場面でどのように使用されるかを理解する。障害を持つ患者が日常どのように生活を行い、補装具の装着によってその活動が変化するかについて学ぶ。	①装具の適合判定について説明できる。 ②義肢の適合判定、異常歩行について説明できる。 ③補装具の製作過程について理解している。 ④切断者の評価について説明できる。 ⑤切断者の断端管理方法について説明できる。 ⑥義肢装着訓練、歩行訓練について説明できる。	1					●										◎		◎	○	○	○	◎	
9240	神経系障害理学療法学	中枢神経系疾患（ 脳血管障害、パーキンソン病、運動失調、神経難病 ）に対する評価から治療までの流れを理解し、理学療法の基本的知識や、障害を持ちながらの日常生活での指導や管理に関する知識を学習し、障害予防を見据えた理学療法の展開方法を修得する。	①神経系理学療法(PT)の対象疾患(片麻痺、対麻痺、四肢麻痺、パーキンソン)の障害像を説明できる。 ②教科書的な評価方法を説明できる。 ③教科書的な治療方法を説明できる。 ④教科書的な介護・介助方法を説明できる。 ⑤各疾患のADL指導の要点を説明できる。	2					●										◎		◎	○	○	◎	◎	

専門分野	理学療法治療学	9241	神経系障害理学療法学実習	神経系疾患の理学療法の基本的技術を習得し、実際の評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案に関して学習し、中枢神経系疾患に対する運動療法の介入方法について実習する。	①神経系理学療法(PT)の対象疾患(片麻痺、対麻痺、四肢麻痺、パーキンソン)の障害像を説明できる。 ②教科書的な評価方法を実技できる。 ③教科書的な治療方法を実技できる。 ④教科書的な介護・介助方法を実技できる。 ⑤各疾患のADL指導の要点を実技できる。	1						●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9244	筋骨格系障害理学療法学	筋骨格系障害理学療法学では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法を習得する。そのために、関節の機能解剖学、病態運動学を学び、各種疾患の障害に対する知識を深め、各種の骨折や変形性関節症などに対して術前後の状態に応じた評価、治療、リスク管理の実際を学ぶ。また、情報収集、画像診断、電気診断のポイントを理解し、各種疾患に最善の理学療法を行えるよう各種運動療法技術や物理療法の効果と、疾患への適応を学ぶ。	①各関節の機能解剖を説明できる。 ②各疾患の病態を説明できる。 ③各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明ができる。 ④評価結果から障害構造の把握を行い、適切な目標設定を作成できる。 ⑤プログラムの立案について説明できる。	2						●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9245	筋骨格系障害理学療法学実習	筋骨格系障害の理学療法に必要な触診、徒手的検査法技術および、腰痛、肩関節疾患、骨折、変形性関節症、関節リウマチ、靭帯損傷等に対する理学療法技術を、実習を通して修得する。また、関節包内運動、ストレッチングなどの実習も行う。	①筋、骨、関節の触診を適切に行うことができる。 ②関節可動域、徒手による筋力評価、感覚検査を適切に行うことができる。 ③各疾患・病態に適応となる徒手的検査を実施できる。 ④関節可動域・筋力改善のための運動療法を実施できる。 ⑤情報収集から評価及び理学療法の実施までを記録できる。	1						●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9248	内科系障害理学療法学（呼吸・循環・	内科系疾患(代謝系・呼吸器・循環器疾患)により生じる病態像と内科系障害像を理解した上で、内科系疾患に対する理学療法展開方法を修学する。 講義では主に代謝系疾患、呼吸器疾患、循環器疾患に関する医学領域知識に触れながら、各疾患病態に対するリスク層別方法や対処方法を提示する。 また、内科系疾患を評価する諸々の評価指標（身体所見、臨床検査データ等）のとらえ方や確認方法、及び臨床場面における理学療法介入を示す。 さらに、生活習慣に起因する様々な内科系疾患の予防とその対応について学ぶ。	①糖尿病の病態を理解し、病態に合致した理学療法を選択できる ②糖尿病の合併症を理解した上で、理学療法実施上の注意点を理解できる ③慢性閉塞性肺疾患の病態を理解し、病態に合致した理学療法を選択できる ④慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた、理学療法を選択できる ⑤慢性閉塞性肺疾患の合併症を理解した上で、理学療法実施上の注意点を理解できる ⑥虚血性心疾患や慢性心不全の病態を理解し、各病態に合致した理学療法を選択できる ⑦虚血性心疾患や慢性心不全の病期に応じた、理学療法を選択できる ⑧虚血性心疾患や慢性心不全の合併症のを理解し上で、理学療法実施上の注意点を理解できる	2							●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9249	内科系障害理学療法学実習	内科系（代謝系・呼吸器系・循環器系）疾患による病態像と内科系障害像を理解した上で、理学療法介入を行うための実践方法を習得する。 内科系障害理学療法学実習では、内科系障害を主とする病態への運動負荷方法とその評価についての知識と技術を深めるため、フィジカルサインのとらえ方およびそのモニタリング方法を実践することで理解を高める。 理学療法士は、診療情報や評価指標（身体所見、臨床検査データ等）から得られたデータをよく吟味し、各病態に対して、リスク層別方法や理学療法介入方法を考察し習得する。	①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる ②運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる ③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解できる ⑤無酸素性代謝閾値について理解できる ⑥肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解し、正しく計測することができる ⑦呼吸理学療法の標準的手技を理解し、模倣できる ⑧AEDを用いた一次救命法を理解し、実施することができる	1							●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9251	スポーツ理学療法学	スポーツ医学に基づいて、外傷・障害発生のメカニズムを、生体力学、運動生理学的視点から分析し、その評価、機能診断から理学療法、アスレティックリハビリテーションプログラムの実際について学ぶ。そのため、実際のスポーツ場面における姿勢・動作観察から障害の分析を行う。また、徒手的治療やテーピングからマネージメントまで、その理論と実際について修得する。	①スポーツ理学療法学の考え方を説明することができる。 ②代表的なスポーツ外傷の発生メカニズムや評価方法を説明することができる。 ③アスレティックリハビリテーションの流れを説明することができる。 ④アスレティックリハビリテーションで用いる具体的手法について説明することができる。 ⑤テーピングの理論を説明し、適切に実施することができる。	2						●									◎		◎	○	○	◎	○	
		9253	発達障害理学療法学	「療育」について理解を深め、発達障害を持つ本人・家族をどう支援していくか考えていくための知識を概説する。また、正常運動発達に基づき、次の発達段階に必要な運動要素の評価について理解させ、発達段階での障害を持つ対象者に対する指導援助に応用できるようにする。代表的な発達障害に対する理学療法の進め方について、ライフステージにおける特徴と必要な関わりについて理解した上で援助できるよう知識・技術を概説する。	①「療育」の概念と障害児・者の各ライフステージについてどのような支援が必要になるか説明できる。 ②障害児・者の二次障害についての概要とその予防について説明できる。 ③代表的な疾患の病態を説明できる。 ④各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明できる。 ⑤評価結果から適切な目標設定を作成できる。	2							●									◎		◎	○	○	◎	◎	
		9254	発達障害理学療法学実習	発達障害の理学療法について、代表的な疾患に対する評価から治療までの流れを理解し、評価および治療手技が健常学生をモデルに実践ができることを目標とする。新生児期から成人期まで長期に渡り医療福祉教育の係わりが必要となることから、現時点での問題点のみならず将来的問題に対する知識を理解させる。 障害を持つ対象者の発達・成長の過程で生じる様々な症状や日常生活上の諸問題に対し、展開すべき理学療法について事例を通して実習する。	①各疾患の病態を説明できる。 ②各疾患に則した評価項目が立案できる。 ③立案した評価を適切に行うことができる。 ④評価結果を考察し、問題点を抽出できる。 ⑤治療プログラムの立案ができる。	1							●									◎		◎	○	○	◎	◎	

		9256	リハビリテーション関連機器	近年、科学技術の進歩によるハイテク技術を駆使した治療・訓練や機能補完を目的としたリハビリテーション関連機器の開発はめざましい。本講義はこのような背景を踏まえて、温熱・光線・電気等による各種治療器や訓練機器、義手・義足や自助具ならびに車いす、さらにはバイオフィードバック装置等の広範囲にわたり解説するとともに、それぞれの特徴や問題点および今後の技術的課題について講述する。	①国際障がい分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）の違いについて要点を説明できる。 ②国際生活機能分類（ICF）における福祉機器開発の意義を簡単に説明できる。 ③国内規格と国際規格の違いについて要点の説明ができる。 ④介護保険制度における福祉用具の位置付けとその取扱い方法（レンタルと購入品の違い等）について簡単に説明できる。 ⑤リハビリテーション等の医療分野での医学と工学の連携の重要性を説明できる。 ⑥補装具について簡単に説明できる。 ⑦日常生活用具について簡単に説明できる。 ⑧共用品の種類やその役割等について説明できる。 ⑨姿勢保持装置や歩行訓練用装置の種類やその特徴等を簡単に説明できる。 ⑩車いすの種類や特徴等を説明できる。 ⑪ベッドやリフト等の種類や特徴等について説明できる。 ⑫障がい者用の自動車について、その特徴等を簡単に説明できる。 ⑬障がい者や高齢者等を対象とした住環境で、特に入浴や排泄等で注意しなければならない点等の説明ができる。	2				●									○			○	○	◎	◎	
地域理学療法学		9261	地域理学療法学	地域リハビリテーションについて理解を深め、理学療法士の役割や考え方、実践方法およびその基礎になっている思想について学ぶ。さらに歴史的背景や現在の状況について理解を深める。	①地域理学療法の歴史的背景について理解している。 ②地域理学療法の概念について説明できる。 ③介護保険の仕組みを説明できる。 ④地域理学療法における評価の特徴について理解している。 ⑤障害者福祉の制度について説明できる。	2				●						○		◎	○	◎		◎	○	○	◎	◎	
		9263	地域生活環境論	理学療法的視点のみならず地域在住対象者の全体像を把握し、そのニーズを適切に把握する。福祉用具の制度およびその機能を知り、居住地での適合や住宅改修方法を学ぶ。	①地域生活者の評価方法について理解している。 ②介護予防について理解している。 ③生活環境評価の方法を理解している。 ④福祉用具の機能とその利用方法について説明できる。 ⑤住宅改修の制度と方法について説明できる。	2						●				○			○	◎		○	○	○	○	◎	
		9265	レクリエーション理論	①レクリエーションの基本的理解とレクリエーション活動の社会的意義を学ぶ ②レクリエーション援助者としての役割について学ぶ	①レクリエーションの意義理解し、自らの学生生活に活かすことができる ②日常生活のレクリエーション化に努める ③地域生活の活性化支援のプログラムを計画する	2	●							◎		○		◎		○	◎					○	
		9266	レクリエーション実技	①様々なレクリエーション活動を学び、レク支援実践能力を習得する ②自らの生活にレクリエーションを取り入れ、豊かな学生生活の基礎とする	①身近な素材を利用して豊かな生活を楽しむことができる ②様々な対象者への支援ができる技術を身につける ③総合的な健康生活支援の展開ができる	2		●						◎		○		◎		○	◎					○	
臨床実習		9271	理学療法学臨床実習Ⅰ	専門教育を受ける前の段階で、臨床施設で実際に行われている理学療法を体験し、理学療法の対象・方法および理学療法士の役割を理解する。また対象者と接することにより接遇、コミュニケーションのありかたを考え、専門職としての理学療法士に求められる態度と役割を学ぶ。併せて、理学療法対象者の障害の多様性、個別性を理解して、理学療法士としての適応の確認と学習の動機付けを行う。	①臨床場面における理学療法士の役割を説明できる。 ②医療場面において適切な態度を習得する。 ③理学療法士に必要なコミュニケーションを習得する。 ④理学療法士としての適応を確認する。	1			●					○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	○	◎	
		9275	理学療法学臨床実習Ⅱ	理学療法を行うために必要とされる「評価」を中心として、臨床実習指導者の指導のもとで実習を行う。学生は単に評価を体験するだけでなく、指導者の指示により理学療法を幅広く体験し、専門職として理学療法士に求められる知識、技術を学習する。	①実際の対象者に対応した理学療法評価項目を挙げることができる。 ②臨床指導者の指導のもとで基本的理学療法評価が実施できる。 ③臨床場面に対応した理学療法評価を実施できる。 ④実施した評価の結果を説明できる。 ⑤評価の結果を適切に記録できる。	3						●		○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	○	◎	
		9276	理学療法学臨床実習Ⅲ	理学療法の基本的なプログラム作成過程を習得するために臨床の場において臨床指導者の指導下で理学療法の過程を体験する。臨床実習指導者の指導のもとで各種の理学療法を幅広く体験し、理学療法士に求められる知識、技術を習得する。また、専門職として理学療法士に求められる技能を獲得する。	①対象者に対応した評価項目をあげ実施できる。 ②実施した評価から問題点を抽出できる ③収集した情報や実施した評価より適切な理学療法目標を設定できる。 ④実習指導者の指導のもと対象者に適応した理学療法プログラムを作成できる。 ⑤情報収集や理学療法評価に必要なコミュニケーションを習得する。	7							●	○	○	○	○	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	

		9277	理学療法学臨床実習Ⅳ	臨床実習指導者の指導下で基本的な理学療法を実施できるようにするため、臨床の場で実習指導者の業務を補助し理学療法を体験する（クリニカルクラークシップ形式）。また専門職として理学療法士に求められる知識及び技能を習得する。	①対象者に適切な情報収集と理学療法評価を行うことができる。 ②臨床実習指導者の指導のもと対象者の理学療法プログラムを作成し実施できる。 ③対象者の状態を指導者に適切に報告できる。 ④チーム医療の一員としての理学療法士の役割を理解する。 ⑤対象者の経過や変化を適切に記録できる。	7								●	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
理学療法研究論・演習		9281	理学療法研究論・演習Ⅰ	理学療法研究論演習ⅠからⅢでは,理学療法諸領域の具体的なテーマを設定し、文献検索や資料の収集、仮説に基づいた実験・調査の実施とその解析から論文作成までの一連の研究過程を体験していく。理学療法研究論演習1ではその最初の段階として、研究テーマを具体的に設定することを中心に演習を行う。研究方法の種類や方法論を学んだ上で、設定したテーマに即した研究計画を作成し、提出する。	①文献検索や資料の収集ができる ②研究テーマを設定できる ③研究計画の立案ができる ④予備的な実験を実施出来る ⑤研究目的に対する研究手法の妥当性を説明できる	1					●				○	◎	◎	◎	◎	◎						○	◎
		9282	理学療法研究論・演習Ⅱ	理学療法研究論・演習Ⅰと連続した科目であり、卒業研究を実施するための準備を行う。理学療法研究論・演習Ⅰで設定したテーマに即し、具体的に文献検索・文献精読を行って問題の所在と問題を解決するための方法、研究仮説を明らかにしていくことが求められる。卒業研究の実験および調査の事前の準備を行って、具体的に卒業研究全体を計画していく。学期末には卒業研究構想発表会を行って、自らの研究内容を明らかにし、発表に対する批評をもとに計画の修正も行う。また、この間、実験や調査により得られるデータの処理法・統計手法を事前に学習する。	①春学期末に提出した研究計画書を吟味して，研究の手順を確認し，必要に応じて計画に修正を加えることができる. ②計画に従って，実験，調査を行って，データを採集できる. ③得られたデータを処理してまとめることができる. ④仮説と結果のズレを明らかとして，考察を加える. ⑤ポスター，抄録のまとめて発表準備を進める. ⑥論文の下書きを作成する.	1						●			○	◎	◎	◎	◎	◎						○	◎
		9283	理学療法研究論・演習Ⅲ	理学療法研究論演習Ⅰ、Ⅱに連続した科目で卒業研究を行う。ここではⅠおよびⅡで行った研究内容を公表する。　そのために仮説やデータに基づいた結果を論述し,その過程においてプレゼンテーションや資料の作成法について学ぶ。最終的にはテーマに沿った研究内容を発表し、主査、副査の審査を受ける。その上で、論文を作成し、提出する。	①これまで行った研究をまとめてレジュメを作成することができる. ②卒論採集発表に備えて，ポスター，スライドを作成することができる. ③卒論採集発表で報告できる. ④発表で指摘された視点を再考し，修正して，論文を作成できる. ⑤期日までに論文を提出することができる. ⑥編集委員会の指示にしたがって，論文の体裁を整え，招請することができる.	1							●		○	◎	◎	◎	◎	◎						○	◎
		9284	理学療法総合演習Ⅰ	総合的に質の高い保健医療福祉を提供するための理学療法技術習得と、臨床実習効果の充実を目的として、臨床実習開始前に備えるべき必要最小限の態度・知識・基本的理学療法の技術を客観的臨床能力試験(OSCE)を用いて評価し、学ぶ。	①理学療法の基礎となる専門基礎科目および臨床医学について知識の整理ができる。 ②理学療法専門科目について知識の整理ができる。 ③理学療法士としての態度・マナー・資質について説明できる。 ④理学療法の基礎的な評価と治療を説明できる。 ⑤模擬患者に対して基礎的な理学療法評価と治療を実施できる。	1							●								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9285	理学療法総合演習Ⅱ	臨床の場で、基本的な理学療法を展開するための実践可能な理学療法技術を身につけるため、臨床実習により学んだ知識と技術を整理する。そのため、解剖学、生理学から基礎医学、理学療法の各専門分野を再学習し、臨床における理学療法の実践に生かせるよう学習する。その中で、総合的に理学療法士に求められる知識・技術を獲得する。	①臨床施設における理学療法士の役割と医療スタッフや他施設との連携について説明できる。 ②臨床実習により学んだ知識と技術について説明ができる。 ③各種疾患に対する理学療法実践のための基礎知識について整理できる。 ④理学療法の対象となる各種疾患に対する評価と治療を実践できる。 ⑤総合的に理学療法士に求められる知識と技術を整理できる。	1							●								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎